

## H17.1.1.7 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成17年11月7日(月) 10時00分～18時30分

議事概要：

表 H17.1.1.7 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の位置づけについて	・事務局より設楽ダムにおけるネコギギ保全の取り組みを説明し、魚類検討会の位置づけを確認した。	・特になし	・特になし
2.委員の所信表明	・魚類検討会の各委員より、改めて委員委嘱に際しての所信を述べて頂いた。	(各委員の所信)	・事務局：委員の方に納得頂いて準備書を作成したいと考えている。設楽ダムは事業アセスであり、実施が前提である。いかに影響を低減できるか、考えていきたい。
3.野外実験について	・環境改善計画について提案した。	・フトン竈には土管を仕込む等の工夫を行うこと。	・事務局：フトン竈については、頂いた意見を参考に再度検討する。
		・自然石ブロックの施工に際しては、委員に立会、指導して頂くこと。	・事務局：施工に際しては、委員が立会できるように日程を調整する。
		・今後の手順を連絡すること。	・事務局：具体の工程計画を立案し、連絡する。
4.ダム事業に関わるネコギギへの影響検討について	・ネコギギ確認淵の消失または改変について説明した。	・ハビタット(生息淵)の評価手法についての考え方はよいので、表を見易くすること。	・消失する淵について、生息確率から生息できそうな淵、生息しなさそうな淵の2ランクに区分して評価する。
	・分断される個体群への影響について説明した。	・分断される個体群は、大きな個体群ではないと認識する。小さな個体群であれば、分断により絶滅確率は上がる。影響を正当に評価すること。	・事務局：現有のデータから複数のパラメータを想定してPVA(個体群持続性分析)を行い、評価する。
	・A 集団の消失に伴う影響について説明した。	・移動率の算出のみでなく、PVAを行って評価した方がよい。その際の範囲は、集団A～Cが適当と考えられる。	・事務局：土木研究所所有の遺伝子データを用いて移動率を算出し、PVAを行う。
		・準備書への記載方法について、最先端の議論を踏まえていることは、記述方法を工夫して準備書へ反映してはいかがか。 ・生データの詳細は記述しなくとも、こういう理論・モデルに基づいたということを示せばよいのではないか。	・事務局：記述方法を検討する。
・水質の変化に伴う影響について説明した。	・過去10年の範囲内に収まるという判断基準でよいと思う。ただし、水温は水生昆虫の積算温度など、フェノロジー(生物季節)に影響する。	・事務局：水環境の影響予測が確定次第、影響予測を見直す。なお、水生昆虫に対するダムの供用による影響は、ネコギギの餌生物の変化として、既設ダムの事例の引用により検討している。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムによる底生動物への影響について説明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖版水辺の国勢調査のデータで比較検討を行うことは問題ないが、ダムの上下流比較については多くの報告があるので、それらの知見も取り入れて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：総論として、ダム上下流の底生動物の変化について谷田・竹門の報告(1999)を引用しているが、ネコギギの採餌環境である淵に絞った検討については入手できていない。さらに論文等の検索を行い、検討に加えたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>解析に際しては、科レベルの解析ではなく、属レベルの検討も行うべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：生活型、サイズや生息場、生態に基づき、必要に応じて属レベルに分類して再検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>餌環境の変化を予測するためには近傍ダムのデータがあった方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：近傍ダムの底生動物調査が実施されているかどうかを確認し、検討を行う。調査が行われていない場合は底生動物調査を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>種間関係の変化について説明を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギギは中下流のみ確認とのことであるが、ギギの分布拡大は非常に近い将来の問題であり、検討は必要であると考ええる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：出現する貯水池に生息すると想定される生物については、近傍他ダムの事例を整理、引用する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギギ(国内外来種)はネコギギの脅威であり、チェックすべき課題と考える。その意味でも準備書の中で触れて頂きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：取り入れる方向で検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流に関する措置(禁止)をうたえてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：取り入れる方向で検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全措置について説明を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接改変の保全措置について、支川へ移植する可能性はあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：支川への移植も検討している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>移植先については複数案を検討することも可能と考える(数十個体は支川、一部は室内など)。遺伝的には、集団A・B・Cは似ている。分布距離も近く、B、Cへの移植も感覚的には問題ないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：移植先として、現在生息していない場所環境改善により生息の可能性が高まる場所を整理して提示する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床材料とネコギギ生息の関係について、影響がないという積極的な理由はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：河床の変化(砂分流失)とネコギギの生息の関連については、予測の不確実性が大きい選定項目として、「配慮事項」としてのモニタリング調査を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムの影響要因の一つである「土砂をとめること」に対する保全措置が実施されないことは釈然としない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：モニタリング調査の結果を踏まえ、必要な保全措置を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流河川における「予測の不確実性」についてのモニタリング調査を、「環境保全措置」として記載できないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：予測の不確実性を伴う事項に対する「配慮事項」としてモニタリング調査の実施の記載を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の対応について</li> </ul>	